

令和元年度（2019年度）

公益財団法人蘭島文化振興財団

事業計画

1 事業運営の基本方針

地域文化の振興を目指した諸事業を行うとともに、地域文化に関する教育普及活動の推進を図り、もって呉市民の文化振興と地域社会の健全な発展に寄与することを目的とする。

2 定款に定める事業

- (1) 蘭島閣美術館、蘭島閣美術館別館、三之瀬御本陣芸術文化館における芸術文化振興事業
- (2) 昆虫の家における自然環境保全啓発事業
- (3) 松濤園における芸術文化振興事業
- (4) 白雪楼、春蘭荘・松籟亭・煎茶室における芸術文化振興事業
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

3 事業の詳細

公益目的事業1「蘭島閣美術館、蘭島閣美術館別館、三之瀬御本陣芸術文化館における芸術文化振興事業」

(1) 展覧会事業

【特別展】

三之瀬御本陣 芸術文化館	開館 15 周年春季特別展 「京都洋画壇の三巨匠—須田国太郎と安井曾太郎・梅原龍三郎」 開館 15 周年を記念して、京都洋画壇の巨匠である須田国太郎の作品を中心に、安井曾太郎、梅原龍三郎の名品を集め、日本近代美術の一端を紹介する。同時期の京都に生まれた三人は、同じ聖護院洋画研究所（後の関西美術院）で学んだ後に渡欧し、それぞれ独自の画風を作り上げていく。須田は西洋の技法と東洋の精神を融合させた世界を、安井は主観的な写実表現を、梅原は感覚的な作風を確立する。本展では同時代を生きて日本洋画壇を牽引した三巨匠の表現を紹介する。
-----------------	--

蘭島閣美術館	<p>秋季特別展</p> <p>「日展日本画の華 佐藤太清と児玉希望、奥田元宋」</p> <p>没後 15 年をむかえる佐藤太清の画業を中心に、児玉希望、奥田元宋という三人の日本画家の名品を並べた展覧会を開催する。1913 年京都府福知山市に生まれた佐藤太清は、18 歳で上京、児玉希望の内弟子となり、試行錯誤を繰り返しながら、日本の自然が持つ美しさを抒情的に表現した花鳥風景画を確立し、日本画壇の重鎮として戦後の日展を支えた。本展では、佐藤太清の郷里福知山にのこる代表的な作品を広く集めその画業を回顧するとともに、あわせて太清の師児玉希望、兄弟子奥田元宋という広島を代表する二人の日本画家の名品も紹介する。</p>
--------	--

【所蔵品展】

蘭島閣美術館	<p>「蘭島閣美術館名品展 華麗なる美の競演」、「瀬戸内の画家たち（前期）」、「瀬戸内の画家たち（後期）」、「旅路～画家たちの描いた美の視界～」、「新春企画 日本の四季を寿ぐ」、「花々の魅力」</p>
蘭島閣美術館 別館	<p>「素描の世界—所蔵品を中心に」、「浮世絵に見る文様あれこれ」、「寺内萬治郎の油彩画」、「童画の登場—大正・昭和初期の新メディア」</p>
三之瀬御本陣 芸術文化館	<p>「SUDA Red 須田国太郎の赤—須田国太郎と赤を巧みに使用した画家たち—」、「須田国太郎と近代風景画の名品／広島洋画壇の重鎮・岡崎勇次が描いた風景画」、「須田国太郎 珠玉の名品」、「須田国太郎と昭和の前衛油彩画家たち」、「須田国太郎と水墨画—洋画家が描いた水墨画—／日本画にみる墨の表現」</p>

（２）教育普及事業

【講演会・教室等】

海や山などに囲まれ、恵まれた自然環境を生かし、市民が気軽に学習、制作活動に参加できるワークショップ・講座等を開催する。

【地域連携プログラム】

市内教育・文化 施設等	<p>「芸術文化普及事業」【自主事業】</p> <p>絵画作品の無償提供を受け、教育・文化施設又は福祉施設などの公共施設を中心に絵画の貸し出しを行い、市民や児童・生徒が芸術作品に触れる機会を提供することで、芸術文化の普及を図る。</p>
----------------	--

【ギャラリーコンサート】

<p>蘭島閣美術館</p>	<p>美術館という特別な環境の中でクラシックコンサートを開催し、美術と音楽という異なる種類の芸術を同時に楽しんでもらうことにより、芸術に対する一層の意識の向上を図って行く。</p> <p>4月20日 國松竜次（ギター）</p> <p>5月18日 堀了介（チェロ） 堀沙也香（チェロ） 吉田友昭（ピアノ）</p> <p>6月15日 橋本京子（ピアノ）</p> <p>7月20日 塚越慎子（マリンバ）</p> <p>8月17日 高木竜馬（ピアノ）</p> <p>9月21日 高木綾子（フルート） 坂野伊都子（ピアノ）</p> <p>10月19日 平田耕治（バンドネオン）</p> <p>11月16日 店村眞積（ヴィオラ） 小山京子（ピアノ）</p> <p>12月21日 小山実稚恵（ピアノ）</p> <p>1月18日 雲井雅人（サクソ） 清田朝子（サクソ） 仲地朋子（ピアノ）</p> <p>2月15日 堀正文（ヴァイオリン） 調整中（ピアノ）</p> <p>3月21日 レオナルド・ブラーボ（ギター）</p>
---------------	---

【ギャラリーコンサート関連事業】

<p>蘭島閣美術館</p>	<p>「ミュージック&アーツ（トライアル）」 音楽や美術を通じて、子どもたちの感情や情緒を育み、創造的で個性的な心を豊かにする。</p>
<p>〃</p>	<p>「コンサート講演会」【自主事業】 コンサートに関する講演会を開催し、クラシックコンサートに対する理解を深めてもらう。</p>
<p>市内小学校等</p>	<p>「ミニコンサート」【自主事業】 ギャラリーコンサート出演者等の協力を得て、学校等においてクラシックコンサートを行い、子どもたちの豊かな感性を育てていく。</p>

(3) 収蔵品等管理、調査・研究事業

上記の展覧会事業、教育普及事業を企画するため、収蔵品及び寄託品等の管理業務と、美術に関する調査・研究活動を行い、より質の高い事業の推進に役立て行く。

公益目的事業2「昆虫の家における自然環境保全啓発事業」

(1) 展覧会事業：

地域の自然環境保全や生物保護への意識向上に資するため、昆虫標本や、生き物をモチーフとした美術品等の鑑賞機会を提供する。

(2) 教育普及事業

【講演会・教室等】

「ふれあい海岸教室」【自主事業】及び「ふれあい昆虫教室」【自主事業】
市民が気軽に学習、制作活動に参加できる各種講演会や講座を開催する。特に、下蒲刈島の豊かな自然に触れ、身近な生物である昆虫あるいは貝や海藻の観察や採集を通して、生命の尊さや自然環境保護の重要性について学び、豊かな感性を養って行く。

【地域連携プログラム】

教育機関等と連携し、環境教育の普及に努めると共に、児童・生徒の環境保全活動に対する支援を行って行く。

公益目的事業3「松濤園における芸術文化振興事業」

(1) 展覧会事業

【特別展】

松濤園	開館 25 周年記念特別展 「朝鮮通信使—江戸時代の国際交流—」 松濤園が開館 25 周年を迎えることを記念し、朝鮮通信使に関する資料を広く集め、通信使の外交の記録、旅程の記録、文化交流の様子を紹介する展覧会を開催する。2017 年に朝鮮通信使に関する資料群がユネスコ「世界の記憶」に登録された。本展では松濤園所蔵資料の中から登録された「朝鮮人来朝覚備前御馳走船行烈図」とともに、各地から集めた資料も紹介する。
-----	---

【所蔵品展】

松濤園	朝鮮通信使資料館：「国書改竄と国交の回復」、「朝鮮通信使が見た日本の景色」、「朝鮮通信使と来日の影響」、「朝鮮通信使の旅路」、「朝鮮通信使と江戸時代の饗応」 陶磁器館：「釉—うわぐすり—」、「器に見る水のある景色」、「古伊万里と金—所蔵名品展—」、「萩と伊万里」、「美濃焼／古伊万里コレクションより『花の彩り』」
-----	---

(2) 教育普及事業

【講演会・教室等】

市民や子供たちが気軽に学習、制作活動に参加できる各種講演会や講座を開催する。

【地域連携プログラム】

教育機関等と連携し、児童や生徒に対する文化の向上に努めると共に、地域が培ってきた伝統文化の継承を進めて行く。

【地域に息づく歴史と文化を普及啓発する事業】

「朝鮮通信使再現行列」(2019年10月20日)

地域の歴史の掘りおこしと日韓友好への一助を目的に、江戸時代の善隣友好使節団「朝鮮通信使」行列の再現を行う。行列の参加者は広く地域住民に求め、地域振興の一環として実施する。

「秋のお茶会」(11月上旬)と「春の梅見茶会」(2月中旬)

松濤園の日本建築と瀬戸内の自然を借景に取り込んだ日本庭園を活用した茶会を催し、茶道という日本の伝統文化の継承に努め、併せて地域文化の向上に努めて行く。

(3) 収蔵品等管理、調査・研究事業

上記の展覧会事業、教育普及事業を企画するため、収蔵品及び寄託品等の管理業務と、地域の歴史と美術に関する調査・研究活動を行い、より質の高い事業の推進に役立てて行く。

公益目的事業4 「白雪楼、春蘭荘・松籟亭・煎茶室における芸術文化振興事業」

(1) 展覧会事業

広く芸術文化(主に体験型の日本文化)の振興に資するため、美術品や建築等の展示を行うと共に、地域に根付く日本文化の体験機会を提供して行く。

(2) 教育普及事業

【講演会・教室等】

松籟亭	「茶道教室」(毎月2回)【自主事業】 武家茶である上田宗箇流による茶道教室を開催し、広島 の伝統文化の継承を図る。
-----	---

【地域連携プログラム】

教育機関等と連携し、体験学習の普及に努める共に、児童・生徒の日本の伝統文化に対する理解を深めて行く。